

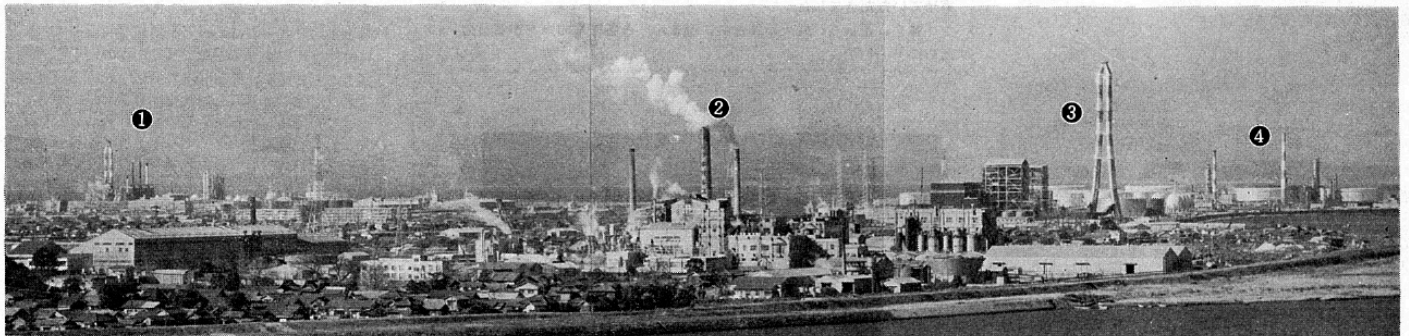
KKK 社 是  
 誠実な施工  
 技能の開発向上  
 安全作業の確立  
 原価の低減  
 協同による社業の繁栄

# 九火新聞

昭和44年9月第49号  
 九州火力工事株式会社  
 福岡市薬院1丁目13番8号九電不動産ビル  
 電話代表(77)8881  
 印刷 有限会社 今井印刷所

## 大分1期建設が竣工 活気づく臨海工業地帯

- 〔写真下〕 のびゆくベルト工場地帯
- ① 昭和電工の石油化学コンビナート群用地
  - ② 鶴崎パルプ本社工場
  - ③ 九州電力大分発電所1号、建設中の同2号
  - ④ 臨海工業地帯の原料源、九州石油大分製油所



〔大分=7月31日〕当社が主要機器据付工事を行ってきた大分発電所1号(重油専焼、出力25万KW)が完成し営業運転に入った。新産都市の優等生といわれる大分鶴崎臨海工業地帯の1号埋立地に完成した同発電所は、中核動力源として、また、九州経済の推進力として重要な任務をもっている。

### 重専25万KW 7月31日に運開

大分発電所1号の運開によって、九電の火力発電設備の最大出力は、200万KWを突破し、206万2,000KWとなり、九州経済浮揚への期待を集めている。また、新産都市大分、鶴崎臨海工業地帯の基幹として、地域経済の発展への貢献も大きいものがある。

同発電所は、さる7月31日、九州で初めての重油専焼火力として、正式に営業運転に入った。当社の同1号主要機器据付工事は、43年5月14日の汽水分離器のつり揚げから本格的な建設工事を始め、10月7日には水圧試験、44年3月17日に火入れとな

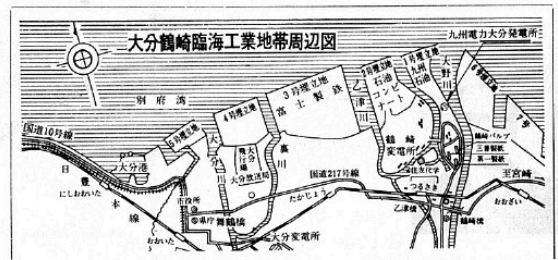
り、4月28日通汽と順調に工程を消化し、1年2カ月余りで竣工した。

同発電所の燃料である重油は、隣接する九州石油大分製油所から直接パイプで輸送する、いわゆるコンビナート方式で供給される。また、同発電所には安全性を高めるなどで、数々の新しい技術が採用された。主なものは、①重油バーナーの自動化 ②電力業界で初めてのブラシレス励磁方式の発電機採用、③高さ120メートルの2倍併用の4脚集合型煙突 ④しゃ断器など騒音と塩害防止のため屋内変電所の採用、⑤排煙監視用テレビ、SO<sub>2</sub>計、集じん装置、ア

ンモニア注入装置などに23カ所のモニタリングを設置するなどがある。

この大分1号の完成に続いて、すでに当社が建設を担当し、最盛期に入っている同2号(25万KW)が45年に、46年には唐津2号(37万5千KW)47年には苅田4号(37万5千KW)と重油専焼大型火力時代に入ったわけ、大分1号の運開は、九州における重専火力のあけぼのとなったといえる。

**大分発電所1号主要機器設備**  
 〔汽缶〕▷型式=三菱スルザーC E モノチューブボイラ(屋外型)  
 〔汽機〕▷型式=串型三車室四分流排気再熱再生式蒸気タービン  
 〔発電機〕▷型式=水素内部冷却横置円筒回転磁界型(ブラシレス励磁方式)



### あい次ぐ新工場の操業開始

全国15を数える新産都市の一つである東九州ベルト工業地帯の中心鶴崎地区は、大分市北部沿岸、大野川と大分川河口一帯を昭和33年から埋立てて造成し、1号地から5号地が完成し、6、7、8号地の造成が進められている。

1号地は39年4月から九州石油大分製油所がトップを切って、中近東油を主に1日10万バレル(将来40万バレル)の製油能力で操業をはじめ、現在各種タンク80余を並べている。隣接して同じ1号地は運開した九電大分発電所1号があり、さらに2号が来年7月完成予定で建設中である。

2号地は、42年8月から昭和電工の石油化学コンビナートの建設がはじられ、本年4月から本格的な操業に入った。当社は、昨年同コンビナートの動力源である260 T/H、40 T/Hボイラの据付工事を行っていった。また、同昭和電工の2万8千KWと1万7千KW発電設備の定期検査工事を担当し、現在順調に作業が進められている。

同石油コンビナートは、1号地の九州石油からパイプラインでナフサの供給を受け、ナフサ分解センターである鶴崎油化がエチレン、プロピレン、ブチレン、ブタン、ブタジエン、分解油などに分解して、各誘導品工場に供給している。これらのコンビナート参加企業は、鶴崎油化を中心に、日本オレフィン化学、昭和アセチル化学、高分子化学工業、A Aケミカル、鶴崎サンソセンター、

鶴崎共同動力、昭和工事の昭和グループ、と八幡化学、日油化学の関連会社である。コンビナートであるため中核をなす鶴崎油化、鶴崎共同動力、昭和工事、共通事務処理役の昭電大分事務所を中心に、各企業が放射線に配置されている。これは電気蒸気、工業用水などの集中共同利用を進めて、エネルギーバランス、安全操業を計り、コンビナートの経済性と安定性で大きな効果をねらったものである。

3、4号地は、富士製鉄の建設本部が、さる7月1日発足し、容積3千500立方メートル規模の高炉2基を建設する予定で、早ければ今年10月に着工するもよう。

また、大分県は新産都市づくりにより積極的で、第2期計画を大野川以東の大在、坂の市の地先海面一帯を埋め立て、6、7、8号の工業用地を造成することにしている。10年前までは工場といえは、住友化学、鶴崎パルプぐらゐであったこの一帯も、安く豊富な工業用水、広大な用地、20万トン級の船舶が入港できる港湾施設、東南アジア方面への至近距離にあるなど、すぐれた立地条件に目をつけ、次々と大企業が進出している。大分鶴崎臨海工業地帯は、九州経済浮揚への工業開発の拠点として指定された、新産都市の優等生といわれる発展ぶりを示している。

なお、昭電グループのメンテナンスを担当する昭和工事には、地元企業50数社が「鶴洋会」という協力会を結成しており、当社もこの鶴洋会に入会している。

### けんせつ

▷外交にとっていちばん大切なことは、優先順位と経過の二つであるといわれている。

優先順位とは、数多い事象の中から最も利益になるものを取捨選択し、達成可能な目標を定めて、これを達成するための手段を選択することを意味する。経過とは、目的を達成するまでの経過であり、道程である。

『外交は目的達成のための芸術である』と、よくいわれているのは、その目的達成のための手段が高度に洗練され、芸術の域まで昇華されていることのひゆ的表現にはかならない。

▷会社の営業活動にも、全く外交活動の根本理念と一脈相通するものがある。新しく市場を開発する場合、また、従来からの顧客である各メーカーなどから各種工

の見積依頼を受けた場合、そのいずれの場合においても、①その時点における人的動員可能性の検討、②将来会社の進むべき物的方向に、それらの工事が適合するか否かの判断、③収支上のバランスがとれるかどうかの計数的予測、などを適正評価し、もっとも会社に即応するものを取捨

### 外交と営業

選択し、受注可能な目標を定めなければならぬ。

各顧客の機構は、近代社会の複雑多岐にわたる諸需要に対応するためや、また、各部門の独立採算制を確立するために、徹底した事業部制が採用され、権限と責任の明確化が推進されている。

営業活動の必須条件は、この機構をいち早くキャッチし、その事業部の権限、責任の所在を知ることであろう。また、同種業者の動向、メーカーの専属的業者の存在などの調査

も、営業活動を成功させる欠かれない条件といえる。

一方、これらの営業活動には、常に「時間」との争いがある。定められた時間に適正な選択の評価ができることが、営業マンに要求されるのは当然のことといえよう。

これらの過程が縦系横系と織りなされて、一つの目標が達成できるわけである。しかし、目標の設定の段階で判断を誤ると、いかに手段が精巧で、しかも周密であっても、大きな誤りをおかすことになる。

▷かつての日本外交が英米派をしりぞけ、親独派を中心として日独伊三国同盟を結んだが、これが破局への第一歩になったという大きな歴史の教訓がある。

営業が単に課の専門業務として枠づけられるのではなく、会社の問題として提起されるゆえんがここにある。(H)